

Part 27 泊から黒部まで

2014年4月2日(水) 晴

泊に下車する。まったくの一年ぶり。成城を8時に立ち、大宮から上越新幹線、越後湯沢からほくほく線の特急「はくたか」に乗る。この列車は、糸魚川は止まらないので、直江津で各停に乗り換える。筒石、能生、糸魚川、青海、市振となつかしい駅々を通り、泊で下車する。13時24分。ホームには水仙が咲いている。春の越中路である。駅から朝日岳と覚しき雪山の写真を撮る。駅前を直北行すれば早いのだが、昨年の道を東北行して北陸道旧道に戻る。左折、西行。天気は良い。14時4分、小川という川を赤川橋で西渡。小さくない小川だ。左手に雪山がきれいだ。雪解け水が多い。

入善町に入る。北陸本線に沿って西行。山茱萸の花が咲いている。入川橋西渡、三叉路を左に入る。右に行けば海岸の方だが旧道に入る。立山の前山の右に黒部川の谷が見えてきた。谷といっても広いが。入善の宿に入る。北陸線の踏切を西南渡。東光山養照寺で小憩。本堂の前に雪よけと覚しき囲いがしてある。黒部まで歩くと18時くらいになるが、春日は永いこともあり、歩くこととする。14時55分に養照寺出立。入善西町で南折。新しい道が多く5万図があまり役にたたない。道勘で歩く。カーブの具合で旧道とわかる。15時15分、村社上野神社を通る。柳が芽吹いてきれいだ。桜は咲き始め、落ち椿、花桃が美しい。上野4区で広道を渡る。旧道は直進している。15時28分、青木六本松公園。右手に杉沢の沢スギと覚しき森が遠くに見える。田ではカエルが鳴いている。早い。やがて黒部川の堤防に出る。芭蕉の碑がある。ここでは句は詠んでいないようだ。

くろべ四十八か瀬とかや 数しらぬ川をわたりて 那古と云浦に出
とある。旧道には橋がないので、国道8号にいったん出て黒部川を渡る。歩道があり助かる。黒部川の水流量は思っていたより少ない。雪解け水は黒部ダムで蓄えられているのだろうか。左手東方向に立山が見える。鉄橋の隙間から写真を撮る。黒部大橋を渡り切り西折。用水に沿って500mくらい行くと旧道に戻れる。南折。昔の堤防と覚しき土手に碑がある。水神も祀ってある。

三日市に入る。吉田川を沓掛橋で渡る。富山県は川が多い。豊かな水に支えられて稲も育ち、海の魚もおいしいのだろう。確か、持ち家率が日本一だ。松が生けてある立派な家が多い。大きな石灯籠のある家もある。本伝寺を通る。ここも本堂前に雪よけがある。「ここは植木」と電柱に書いてある。地方は表札に住所がなく、どこを歩いているのかわかりにくい。ありがたい電柱だ。村社、樹木社。さすが植木だ。高橋川を天神橋で渡る。富山地方鉄道に出る。踏切で南渡。すぐ右折して西行。JRの黒部駅に向かう。黒部市役所の裏を通り、電鉄黒部駅で左折、南行。十字路に出たところに「三島の大樫」という巨木がある。この木に山藤だろうか大きな藤がかかっている。「化藤」と碑がある。この十字路で右折、西行。500mくらいで黒部駅に着く。17時41分の富山行きに乗り富山で下車、駅前の富山エクセルホテ

ルに投宿する。夕飯は駅前の居酒屋で旬の魚やホタルイカを食べる。清酒「立山」を一合飲む。28260歩。